

# 子ども患者のために

## 福山の「ドール」100体仕上げ

福山キワニスクラブに贈る。  
 は19日、市内のホテルで子ども患者に治療方針を説明する際などに利用する布製人形を「キワニスドール」と呼ばれ、高さ約40センチ、重さ約50グラム、白い布を



子どもの患者のために人形を作る参加者

筒状に縫い合わせて綿を詰める。医師が説明に役立つほかに、子どもへの遊びにも使う。同クラブは2004年の設立以来、計650体を贈ってきた。応募して参加した同市伊勢丘の主婦河村有為子さん(70)は「人形を抱っこして安心して寝てほしい」と話していた。(武内宏介)

# 福山キワニス がドール作り

国際奉仕団体「福山キワニスクラブ」(和田芳明会長)は19日、福山ニエドキャッスルホテルに



ドールにポリエステル綿を詰める会員ら

会員九人が集い、クラブ独自に展開するキャラクタ人形の「キワニスドール」を新たに百体作製した。キワニスドールは一九九三年、病気の子どもたちと医師とのコミュニケーションを図るため、南豪州で誕生した身長四十

センチ、体重五十グラムの真っ白人形。医師らが病気を患う子どもたちに治療の説明をしたり、体の構造を教えるのに役立つ。日本には二〇〇一年に紹介され、これまで全国の医療機関など四百三十六カ所に一万五千個が贈られてきた。福山キワニスクラブでも中国中央病院、福山市民病院、日本鋼管福山病院などに五百九十個をプレゼントしている。

この日は、あらかじめ木綿生地で縫製されたドールの中に、ポリエステル綿を詰め込む作業を行った。あるボランティアは「近ごろのプラスチック製おもちゃと異なり、何もない白が立派な個性になっていきますね」と話していた。

問い合わせは四〇八四・九八二・五五五九(福山キワニスクラブ)まで。